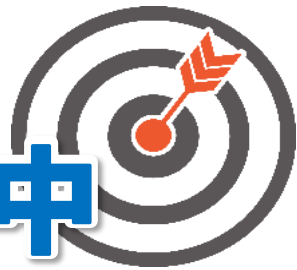


2022
ズバリ! 的中



世界史

名古屋大学

東南アジア交易について論述問題が的中!

入試問題

前期日程
世界史 問題IV

世界史 問題IV

東南アジア地域を経由する海路による東西交流・交易は、紀元前後から盛んにおこなわれるようになった。紀元前後から5世紀ごろにかけての東南アジア地域は東西交流・交易にどのように関わっており、またそれからどのような影響を受けていたと考えられるか。以下の語を参考にしながら350字以内で説明しなさい。(解答の文中にこれらの語を使ってよいが、すべてを使う必要はない。)

日南郡	林邑	扶南
オケオ	インド	ローマ

河合塾

第1回 名大入試オープン
30頁 問題IV

世界史 問題IV

東南アジアにおいて、東西を結ぶ1~2世紀頃の交易ルートの主流は、マレー半島北部を陸路で横断してベンガル湾とタイ湾を結ぶものであった。そのためインドシナ半島沿岸部は南シナ海と西方との交流の接点となり、有力な港市国家も形成された。その後、インド文化の流入が進み、東南アジアの政治や文化に大きく影響を及ぼすようになった。7世紀頃に交易ルートの主流が代わると、交流の接点は諸島部が中心となり、この一帯には新たな港市国家が繁栄する一方、農業を基盤とする国家も現れた。さらに、10~12世紀には東アジアや西アジアからの商人が一層多く来訪するようになった。

以上を踏まえて、1~2世紀におけるインドシナ半島沿岸部の状況、交易ルートの主流の変化と諸島部での国家の発展、さらには10~12世紀における諸島部の交易の状況について、以下の語句をすべて用いて350字以内で説明しなさい。(語句の順序は変えてよい)

マタラム朝 (古マタラム)	ジャンク船	オケオ	義浄
大秦王安教	クディリ朝	ボロブドゥール	